

III-1 琉球大学のSDGsへの取組み

(1) SDGsと琉球大学の基本理念

2015年9月の国連総会において、「Leave no one behind (誰一人取り残さない)」という考えのもと、「持続可能な発展のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals; SDGs) が採択されました。琉球大学においては、2007年に「琉球大学憲章」を制定し、その基本理念に基づき、持続可能な地域社会の発展に向けた取組みを推進してきました。

SDGsに関連する国内外における様々な状況を踏まえ、2019年6月に「琉球大学におけるSDGsへの取組みについて」として、学長メッセージを琉球大学公式ホームページで公表しました。

琉球大学のSDGsへの取組みを本格的に推進するため、2020年2月、SDGs推進室を設置し、SDGs推進室の中に置かれた「教育」、「研究」、「社会貢献」及び「業務・ガバナンス」の4つのワーキンググループ (以下「WG」という。)を中心にSDGsに関連する取組みを展開しています。2022年2月には、SDGs推進室の4つのWG等が相互に連携し、本学におけるカーボンニュートラルに関する取組みを推進することを目的として、「カーボンニュートラル推進チーム」を設置しました。



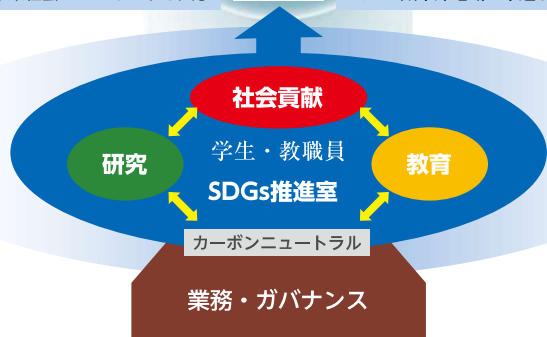
琉球大学におけるSDGsへの取組みについて
 本学は、SDGsの達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。
 2019年6月 琉球大学 学長 西田 睦



THEインパクトランキング 総合 (国内17位タイ、世界301-400位)
 評価指標
 ・SDG12: つくる責任つかう責任 (国内6位タイ、世界101-200位)
 ・SDG14: 海の豊かさを守ろう (国内3位、世界29位)
 ・SDG15: 陸の豊かさを守ろう (国内11位タイ、世界101-200位)
 目標
 SDGs学内アンケート
 ・SDGs理解度、SDGs関連の教育、研究、社会貢献の活動など

地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学

アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学



III-2 SDGsに係る中期目標・中期計画 (2022～2027年度)

第4期中期目標期間(2022～2027年度)における琉球大学の中期目標・中期計画の中に、「SDGs達成への貢献」が盛り込まれており、中期目標・中期計画の達成に向け、様々な取組みを推進していきます。

中期目標

地域の人々が、島嶼という隔てられた空間において限られた資源を大切に活用し、持続的に生存するために相互に支え合いつつ培ってきた智慧、いわゆる“Island wisdom”を基盤とした教育研究活動を推進するとともに、学内外のステークホルダーとの連携・協働による取組みを強化することにより、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献する。

中期計画

沖縄そして世界が直面する経済格差の拡大や気候変動などの課題解決に繋げるため、SDGsの観点を取り入れた教育研究活動等を推進するとともに、学内外の多様なステークホルダーとの連携・協働を通して得られた知見と成果を積極的に発信する。

“Island Wisdom”

琉球大学の中期将来ビジョンでは、“Island Wisdom”を「島嶼に暮らす人々が、その環境をつくりだすとともに、折り合いをつけながら、時に海を越えた交易を交えつつ、生き続けてきた中で体得した経験と智慧」「島嶼という限られた空間、資源の中で持続的に生活をしていくための智慧」としてしています。

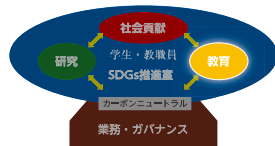
今日の世界が直面する課題には、経済格差の拡大や気候変動などがありますが、日本においても、少子化、高齢化、地域の過疎化などの先例のない課題が山積しています。これらの課題を解決し、地球上の全ての人々が人間らしく幸福に生きることでできる社会を実現するために、琉球大学は“Island Wisdom”を新たな発展の可能性として提示しています。

下記のサイトから、“Island Wisdom”に基づいた琉球大学のビジョン・アクションプランをご覧ください。ただし、

【琉球大学の中期将来ビジョン】<https://www.u-ryukyuu.ac.jp/chuki-vision/>

III-3 教育WGの取組み

教育WGでは、学生・教職員がSDGsとは何なのか、なぜSDGsの達成に取組むのかといった基本的なSDGsの知識を身に付け、理解を深め、その上でSDGsを理解するための学習・教育の場を創出・参画し、実践していくことを目指しています。



(1) ワークショップの開催

SDGs教育連携ネットワークシンポジウム(2022年3月19日開催)で、「SDGsの達成に向けた教育実践」、「高校での探究的な学びの充実」、「国際保健に関するESDの推進」、「琉球大学学生のSDGs学習分析」の4つのテーマについて、沖縄県内教育関係者や生徒・学生などが参加したテーマ別ワークショップを開催し、議論を深めました。



(2) 高大接続の取組み



高校生対象の「沖縄未来社会創生シンポジウム」を開催しました。シンポジウムでは、沖縄県内の高校生が貧困・平和・環境・災害・観光・文化などの様々な社会的な課題をテーマにした探究の成果を発表し、学校を越えた生徒の交流の場となっています。また、大学教員・大学院生、中高教員等も参加し、研究内容のまとめ方などSDGsをキーワードとした活発な意見交換がなされています。

(3) 大学での講義

学部・大学院の授業の科目の内容について、

- 1) SDGsについて学ぶもの
- 2) SDGsを達成するために必要な知識やスキルが習得できるもの
- 3) SDGsを達成するために取り組む動機付けとなるもの

のいずれかを含むものを「SDGs関連科目」としてピックアップし、対応する17のゴールとともに一覧化しています。これにより、学部や教育プログラムの枠を超えて、学生それぞれが望むSDGsへの学びとの出会いを支援しています。

SDGs
関連項目一覧



III-4 研究WGの取組み

SDGsの達成には大学の広範な貢献が必要とされていますが、中でもSDGsに関する研究は、大学が担うSDGsへの貢献の大きな柱の一つとされています。本学のSDGsに関する研究の推進・支援を目的に、SDGs推進室のもとに研究WGが設置され、SDGs推進室の発足とともに活動を展開しています。



(1) 琉球大学SDGs社会課題解決研究プロジェクト

令和4年度は、沖縄県との連携のもと、学内公募の戦略的研究推進経費事業「SDGs研究プロジェクト」を発展させ、「琉球大学SDGs社会課題解決研究プロジェクト」を新たに開始しました。応募件数は20件と、本学のSDGs研究の大きなポテンシャルを感じ取ることができました。これらの中から5件の課題を採択し支援を行いました(表1)。また、後学期には再チャレンジプロジェクトとして10件の課題を追加採択し支援を行いました(表2)。年度末には成果報告として各課題代表者に動画を作成いただき、学内ホームページで公開しています。

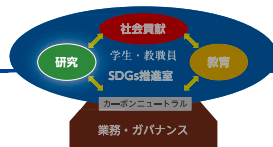
表1 2022年度SDGs研究プロジェクト採択課題

部局	研究課題
教育学部	Creative Learning Environment 地域資源を取り組む創造的な教育環境づくり・モデルプロジェクト実践開
教育学研究科	教師のウェルビーイング(well-being)を向上させる研修プログラムの開発
医学研究科	沖縄県胃腸臓器脱疾患の実態調査と予防戦略の構築
農学部	登録された世界自然遺産の緩衝地帯および周辺管理地域で実施する環境に配慮した立木の収穫と伐採後の更新面に多種、多様な樹種が共存する更新技術の解明
農学部	資源・エネルギー循環 できなく食農ゆいまる (琉大地域食品リサイクルプロジェクト)

表2 2022年度SDGs社会課題解決研究再チャレンジプロジェクト採択課題

部局	研究課題
教育学研究科	教育DXによって学校・家庭・地域をつなぐ次世代連携システムの開発
理学部	モズクによる炭素固定効果および酸性化影響の緩和効果の検証
医学研究科	女性の社会進出を妨げる下部尿路疾患への包括的支援プロジェクト
工学部	子どもの居場所とサポーター企業をつなぐAIマッチングアプリの開発
工学部	伐採樹木のリグノセルロースを利用した脱炭素・資源循環型新素材の開発
工学部	ハイドレード法による二酸化炭素分離/海水淡水ハイブリッド技術開発
工学部	沖縄県産マンゴーの安定生産を目指した栽培情報モニタリングシステムの開発
農学部	堆肥発酵促進・アンモニア回収技術による堆肥価格低下への検討・検証
農学部	やんばるにおける森林の生物多様性と有機物生産量の関係の解明 -生物多様性保全とバイオマス利用の両立に向けた森林管理の検討
農学部	大学農場での体験農園プログラム作り及び利用者参加

III-4 研究WGの取組み(2)



(2) 琉球大学 SDGs 研究シンポジウムの実施

2023年3月14日に、沖縄の社会課題について大学の知をどう活用できるかをメインテーマに、「琉球SDGs第3回研究シンポジウム～おきなわのジェンダー平等のために琉大でできること～」を開催しました。

文系講義棟の大講義室でZoomを併用したハイブリッド開催で、参加者数は合計50名を数えました。教育学研究科の上間陽子教授に、「沖縄の若年女性をめぐる状況～調査とシェルターおにわの実践から」と題して、基調講演いただいたほか、パネルディスカッションの場を設けて参加者全員で沖縄のジェンダー平等の課題について議論しました。

(3) SDGsランチセミナー

Zoomによる定期的なランチミーティングやランチセミナーを学内教職員・学生など広くに向け、開催しています。

オンラインの強みを活かし、自席でお昼ごはんを食べながら気軽にSDGsに関する研究の最新トピックスに触れる機会を設けることで、SDGsに取り組む研究者コミュニティの拡大や新たなSDGs研究の創出への環境づくりの基盤となることを狙いとしています。

<過去のトピックス>

- 第1回 「文学における「他者」の視点とSDGs」
- 第2回 「海藻とSDGs」
- 第3回 「平安時代の文学に見るSDGsへの萌芽～『竹取物語』『源氏物語』『とりかえばや』のジェンダー平等への願い～」

III-5 社会貢献WGの取組み



社会貢献WGの使命と目的

琉球大学は地域貢献大学として、持続可能な社会の実現に寄与していくことを目指し、地域の振興や発展を担う人材の育成に取り組んでいます。社会貢献WGでは、地域において大学が果たす役割や連携について、SDGsに繋がる社会貢献活動の観点から考え、以下の施策を企画して実施に移しています。

(1) ICTを活用した離島教育環境改善事業

離島地域の自治体や学校からのニーズに応じた教育支援活動に継続して取り組んでいます。特にICTを利用した離島地域の教育環境改善に力を入れて取り組むために、産学連携のプロジェクトを活用して、離島の自治体や教員に向けたICT活用の先進事例の紹介やシンポジウムなどを実施しています。また、離島の教育現場においては、STEM教育の出前事業を実践しています。

(2) 子どもの貧困問題への対応

沖縄県は全国と比較して「子どもの貧困」に関連する課題が多く、その解決に向けて、琉球大学に所属する教職員や学生がチームとなり取り組んでいます。そのひとつに、若年シングルマザーを支援するシェルターを開設し、支援が特に必要な出産前後の時期の医療的・身体的・心理的なケアを専門スタッフが連携して提供する事業があります。また、寄付された食料品を子どもの居場所に配る活動の効率化を目指して、教員と学生がチームとなり、人工知能(AI)を活用したアプリの開発にも取り組んでいます。

(3) SDGsの概念を取り入れたキャンパスツーリズムの展開

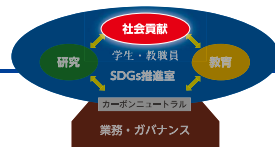
県外から訪れる多くの修学旅行生・研修旅行生に沖縄の文化、歴史、自然の魅力や本学での研究成果を、SDGsの概念を取り入れつつ体系化したプログラムで発信しています。また、本学のコンテンツを利用した学びと長期滞在・観光を両立させるスタディケーションを実施しています。



スーパーサイエンス
ハイスクール研修受入 ▶
(諏訪清陵高校) 2023年3月2日～3日

環境憲章・環境方針
大学概要
SDGsへの取組み
環境活動の概要
環境負荷
環境法令順守
評価
対照表

III-5 社会貢献WGの取組み(2)



(4) カーボンニュートラルの推進

一般の小学4～6年生と保護者向けに、県内のエネルギー施設の「取材会」を開催し、CNIについての普及啓発を行っています。また、参加した小学校では県内のエネルギー施設の取材内容(インタビュー記事や写真)を使ってエネルギー新聞を作り、資源エネルギー庁主催の「わたしのくらしとエネルギーかべ新聞コンテスト」に応募しています。



▲中城村養殖技術研究センター(NAICe)での取材(2022年7月23日)と取材をもとに作成したかべ新聞

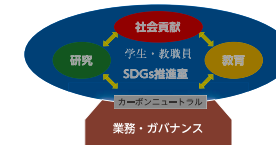
(5) 国際貢献の見える化と方向性の確認

海外拠点では、制限されていた様々な国際協力・貢献活動が通常に戻りつつあります。日本学術振興会(JSPS)の「研究拠点形成事業」では、ラオスにて共同研究を行っている関係者が来沖し、第1回セミナーを琉球大学にて開催しました。その他「JICA SDGsフォトコンテスト作品展」をJICA沖縄と附属図書館の共催で開催しています。このようなJICAとの連携を強化するため、琉球大学-JICA沖縄連絡協議会を開催し、具体的な取組みについて協議しています。



▲ラオス研究拠点形成事業第1回セミナー(2022年12月9日～10日)

III-6 業務・ガバナンスWGの取組み



琉球大学が教育研究機関としてSDGsの達成に貢献する役割を果たすためには、「SDGsとは何か」という理解や、本学がSDGsの達成に大学としてどのように取り組んでいるのかという情報は、学生及び教職員に十分共有されなくてはなりません。また、ステークホルダーの一員である地域社会に本学におけるSDGsの取組みとその成果を広く発信し、取組みをさらに推進するため、地域社会とのパートナーシップを構築していくことも重要です。こうした目的のもと、以下の取組みを行っています。

(1) SDGsに関する教職員・学生アンケート調査報告書の作成

SDGsに関する教職員及び学生の理解、考えや実践等のアンケートを行うことで、本学でのSDGs活動のチェックを行い、改善しながらSDGs達成に貢献することを目的とし2022年9月～11月にアンケート調査を実施しました。

また、当該アンケート調査については、集計と分析の結果を報告書として取りまとめ、SDGs推進室Webサイトで公表しています。本学教職員のSDGsに対する理解や当事者意識をどのように醸成していくのが問われており、調査結果から、職員については、「SDGsという言葉では理解していても、実際の行動には至っていない状況がある」ということが明らかになりました。いかにして教職員がSDGsへの当事者意識を持ち、「自分ごと」として捉えてもらえるのか、学内コミュニケーションの活性化により、SDGsへの理解を深め、連携・協働して取り組む「具体」の設定が今後重要となります。



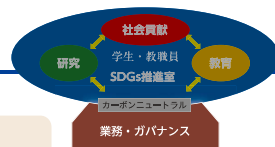
(2) SDGs推進室WEBサイトの充実

琉球大学のSDGsに関する取組みやイベント等の情報を学内外に発信するため、SDGs推進室WEBサイト「琉大SDGs(RYUDAI×SDGs)」を設置しています。琉球大学のSDGsに関する情報を集約するWEBサイトとなっており、学生及び教職員のSDGsへの当事者意識の醸成、SDGsについての理解と取組みの推進、さらには学外のステークホルダーとのパートナーシップの構築に資することが期待されます。



SDGs取組み紹介動画: <https://sdgs.skr.u-ryukyuu.ac.jp/r5opencampus-movie/>

III-6 業務・ガバナンスWGの取組み(2)



(3) 「THE大学インパクトランキング2023」へのエントリー

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が実施し、SDGsの枠組みを使って大学の社会貢献度を測る「THE大学インパクトランキング2023」に琉球大学にとって強みとなる(したい)11項目にエントリーしました。

エントリーの結果、総合ランキングの対象となった世界1,591大学中で301-400位、国内17位タイにランクインしました。SDGs目標別ランキングにおいては、SDG14(海の豊かさを守ろう)が世界29位、国内3位、SDG12(つくる責任つかう責任)が世界101-200位、国内6位タイに、SDG15(陸の豊かさを守ろう)が世界101-200位、国内11位タイにランクインし、高い評価を得ました。

琉球大学は、これからもSDGsの達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。

SDGs カテゴリ	 SDG14 海の豊かさを守ろう	 SDG12 つくる責任 つかう責任	 SDG15 陸の豊かさ を守ろう	 総合
世界ランク	29位/504校	101-200位 /674校	101-200位 /586校	301-400位/ 1591校
国内ランク	3位 /40校	6位タイ /45校	11位タイ /42校	17位タイ /78校

表 THE大学インパクトランキング2023における本学の主要スコアー

III-7 カーボンニュートラル推進チームの取組み



カーボンニュートラル推進チームは、国が掲げる「2050年カーボンニュートラル達成」を見据え、本学におけるカーボンニュートラルに関する取組を推進することを目的とし、2022年9月に新たに組織されました。使命・目的は、①カーボンニュートラルに関する情報共有、②プロジェクトの創出、③学内外ネットワークの強化、④発信力の強化、⑤カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションとの連携などがあり、多岐にわたります。

(1) カーボンニュートラル推進に関する調査・実施計画の策定等

2022年3月、琉球大学におけるカーボンニュートラル活動の推進に繋げるために、カーボンニュートラルに関する教育・研究等に関するアンケート調査を行いました。

また、本学の脱炭素化を推進するため、2023年度現在は実施計画を策定中です。その他、次項にご紹介のように、①消費電力量可視化の強化、②消費電力減に係る課題解決のためのワークショップやセミナーの開催、③エコキャン(琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会)と連携した学生主体の活動推進などを推進しています。

(2) 計画1：消費電力量可視化を強化

現在、琉球大学学内ネットワークにて、現在のデマンドや使用電力量の表示サービスを行っていますが、さらに詳細に見やすく、リアルタイムな可視化を目標に学内広報サイトの改良を進めています。



(3) 計画2：ワークショップ・セミナーの計画

教職員並びに学生を対象としたカーボンニュートラル推進に関するワークショップ・セミナーを実施し、消費電力削減及び省エネを意識した行動変容に繋がる話題提供を計画しています。

(4) 計画3：エコロジカル・キャンパス学生委員会との連携

従来の学生によるエコ活動に加え、学生版カーボンニュートラル推進チームが発足されており、今後、ワークショップ・セミナー等を通しカーボンニュートラル推進チームとして奨励していきます。

